

福島の家族受け入れ保養プロジェクトの 報告と反省

2013 年 3 月 31 日～4 月 5 日



菜の花畑で

手をつなごう福島と！プロジェクト
百草園&千草会

連絡先 百草園

熊本市北区植木町今藤 1140-1

tel/fax 096-273-1917

mail info@hyakusouen.jp

千草会

tel 090-7985-3232(よしき)

■ 目次 ■

1	計画に至るまで.....	2
	福島に野菜を送りつづけて 企画したプログラム内容とスケジュール 参加家族の募集 支援のお願い	
2	実施内容.....	6
	1日目（お迎え 民泊） 2日目（熊本城 民泊） 3日目（肥後民家村） 4日目（百草園でのタケノコ掘り 菊地農場泊） 5日目（木之内農園でのイチゴ狩り 阿蘇観光） 6日目（見送り）	
3	会計報告と協力者.....	10
	会計報告 協力してくださった皆様	
4	今後に向けて.....	12
	反省会まとめ	
5	お便りの紹介.....	14

1. 計画に至るまで

福島に野菜を送りつづけて

この一年間百草園と千草会では、福島に野菜セットを送料なしで送る試みを続けてきました。30人が一回50円送料カンパを出せば1500円調達でき、福島に段ボール2セットを一縛りにして一便送ることができる。そういう趣旨で、「手をつなごう！福島と」と名付けたプロジェクトを、千草会を中心とした有志に募ってスタートさせました。福島では実際に多くの人がそこに住んでいて、様々な事情や行政の復興攻勢で、なかなか声を上げることが難しいとのこと。そんななかで、原発と東電に意義申し立てを続ける武藤類子さんたちのグループへ送る事にしました。野菜セットの代金は払ってもらう形ですが、寄付の野菜をプラスしても、この形でなら何年でも無理なく続けられると考えました。

福島の家族を招くプログラムのきっかけ

福島と便りをやりとりするうちに、千草会の会員も子育て世代の若い人が多く、子供達を招きたいという声があがりました。特に、自然の中で放射能を気にかけることもなく子供達が思いっきり遊べる機会を作って、自然とふれあう喜びを体験してもらう。熊本と福島の子供達が友達になり、熊本の子供達が福島のことを考える時、「福島に友達がいるよ」と言えるような、福島の子ども達も「熊本に友達がいたね」と思えるような、そんなものを作れたらいいという思いです。武藤さんが熊本を訪れた時に、短期の保養プログラム計画について訪ねたところ、「保養は多くの緊張を抱えて生活している親に、とっても意義のあることだ」と聞き、親子で招くプランを計画することとしました。



企画したプログラム内容とスケジュール

有機農業は、元々自然の中での資源循環を基礎にして行う物です。そんな私達にとって、子供のころに四季折々の自然に触れて過ごしたことは、まさに原体験です。ですから、短い間とはいえ、子供達に自然の中で過ごす機会を作ってあげることが一番の目的でした。また、福島で子育てをしながら暮らし続ける、お母さん達の声も聞いてみたいと思いました。そこで、この時期ならではのタケノコ掘り体験をメインにすえ、何度か調整をおこない、次のような計画を立てました。

▼スケジュール

日	3月31日(日)	4月1日(月)	4月2日(火)	4月3日(水)	4月4日[木]	4月5日[金]
予定	到着 打ち合わせ	熊本城見物 花見	交流 食事会	竹の子掘り 野草摘み	自由行動 阿蘇周遊	熊本発
開催 場所	空港	熊本市	肥後民家村	百草園	自由行動 阿蘇周遊	空港
宿泊	民泊	民泊	肥後民家村	菊池農場	阿蘇エコ ログハウス	

- 3月31日 朝新幹線福島出発 12:45 羽田発 14:40 熊本着
滞在中のスケジュールを打ち合わせて民泊受け入れ家庭へ
- 4月1日 10:30 熊本城二の丸駐車場案内所集合
二の丸広場で交流会 熊本城と城下一帯で花見とお城見学
夜は民泊二日目
- 4月2日 11:00 肥後民家村入村 12:00 学童保育「おむすびっこクラブ」と交流
レクレーション 3:00 夕食準備 夕食と交流会
- 4月3日 10:30 百草園周りでタケノコ掘りとシイタケ採り
今藤公民館で昼食
午後、菊池農場へ移動 バーベキューの後、宿泊
- 4月4日 10:30 菊地阿蘇スカイラインから阿蘇周遊 木内農園イチゴ狩り
宿泊は久木野の阿蘇エコファーマーズのログハウス
- 4月5日 9:00 前ログハウス出発し 10:15 熊本発
11:50 羽田着 新幹線乗り継ぎで福島へ

参加家族の募集

福島に野菜を送りつづけている私達にとって、福島のつてといえば武藤類子さんですが、武藤さんは全国訴訟団の団長としてそれこそ休む間もない忙しさで全国を飛び回ってます。そこで、熊本在住の福島からの避難者の方に相談することにしました。避難者の高済こずえさんの友人、また、高済こずえさんの知り合いで福島ハンドツーハンドという現地 NPO を通して参加者を募りましたが、なかなか定員を満たすことができませんでした。その後、保養プランのインターネット掲示板「ほよーん掲示板」に登録をしたところ、たちどころに 4 組ほどの問い合わせがあり、先着順で 3 家族の参加を受け付けることになりました。

参加家族は 小笠原紀子さん（42 才） 山形県高畠町在住
健人くん（10 才） 和花ちゃん（7 才）
増子由美子さん 38 才 福島県須賀川市在住
愛華ちゃん（9 才） 歩華ちゃん（6 才）
鈴木のり子さん 42 才 福島市在住
岳くん（5 才）

の 3 家族、それに熊本在住の高済こずえさん(42 才)と、秀吉くん、ひとみちゃんの家族がサポートを兼ねながら合流です。

熊本への移動は新幹線を使うか、飛行機を使うか迷いましたが、今回は飛行機を使うこととし、福島から新幹線で東京に出て羽田からスカイマーク便で熊本へという方法をとりました。



支援のお願い

最初概算で立てた予算は次のようなものでした。

▼福島からの春の保養企画要綱案 2月27日

経費概算	(大人3人、子供6人として)	
	交通費(福島～東京～熊本 往復)	350,000
	滞在中諸経費(20,000円×9人)	180,000
	費用計	530,000
収入見込み	(主催者拠出、参加費徴収、カンパでまかなう)	
	手をつなごう福島と！プール金	40,000
	千草会から	50,000
	百草園から	100,000
	参加家族から 大人3×10,000	30,000
	子供6×5000	30,000
	主催者で集める団体、個人カンパ	100,000
	収入計	350,000
不足金	(新たに募るカンパ)	180,000

これが最低限のラインであろうと考え、支援のお願いを始めました。

主催者で集める分は、熊本県下の有機農業仲間や千草会の消費者へ呼びかけました。「福島のために何か出来ることはないかと考えていた」という思いは熱く10万円、5万円というカンパを寄せてくれた人もいました。新たに募る分については、「九州産直クラブ」に要請をいたしました。福岡市を中心に3500世帯ほどの会員を抱える自然食グループ「九州産直クラブ」は、私たちの出荷先です。早速、会員に一口500円の協力カンパを呼びかけて、対応していただきました。

その結果最終的には448,820円の寄付が寄せられ、次に取り組むための準備金を確保することができました。

2 実施内容

実施一日目・3月31日 土曜日 熊本空港にお迎え

熊本空港へお迎え（間さん、高済さん、伊藤さん）。飛行機が2時間以上遅れて午後4時半過ぎに到着。友人同士の高済さん（熊本に母子で移住）と小笠原さん（山形に母子で移住）親子は、3年ぶりに福島を遠く離れた熊本で再会でした。

この日はそのまま民泊先へ移動。

間宅 鈴木さん親子

高済宅 小笠原さん親子

亀の井ホテル北熊本 増子さん親子

増子さん親子は当初千草会代表のよしきさん宅に宿泊の予定でしたが、よしきさんの子供のインフルエンザ感染により、急きょビジネスホテルに変更しました。

実施二日目・4月1日 月曜日 熊本城見学の一日

11時 熊本城二の丸広場に集合 お弁当を食べながら自己紹介と交流。

間さん、高済さん親子、伊藤さん、よしきさん親子、百草園スタッフの西村さん、オビロさん、村上さんが参加。

レストランバオバブのお弁当と持ち寄りの料理で昼食会。

子供たちは広場でボール遊びやクローバで髪飾りを作ったりして遊ぶ。

午後 熊本城天守閣と本丸御殿見学、武将隊のパフォーマンスあり。

城彩苑桜の馬場散策、もっと遊びたい子供たちに答えてもう一度二の丸広場へ。5時過ぎまで駆け回って遊ぶ子供達。親は歓談のひととき。



実施三日目・4月2日 火曜日 肥後民家村の一日

朝からの雨の一日。

和水町の肥後民家村でお昼を挟んで、学童保育「おむすびっこくらぶ」の福田先生や子供たちと交流。

福田亜矢子さん、沼田睦子さんが夕食のだご汁づくり。お母さんたちはコインランドリーに出かけて、たまった洗濯物の選択、山鹿市に足を伸ばして八千代座見学。

夜、百草園スタッフも合流して産直クラブ差し入れのお刺身とだご汁、おにぎり、ドリアで夕食。

食後は福田研先生（子供たちはゴリラ先生と命名）の落語会。



実施四日目・4月3日 水曜日 タケノコ掘りのあと菊池農場へ

朝から天気も回復し、和水町からお隣の植木町に移動していよいよタケノコ掘り体験。百草園近くの堀田さんの竹林で、たくさんのタケノコを掘りました。そして掘りたてのタケノコを宅配便で福島に送りました。

お昼は公民館で伊藤さん、亜矢子さん、千草会の弓削さんの作ってくれたおいしいカレーを食べました。夕方、宿舎の菊池市の山あいにある菊池農場に移動、夕食は菊池農場でのバーベキューという、ハードな一日になりました。



実施五日目～六日目・4月4日（木）～5日【金】 阿蘇巡りとイチゴ狩り

行程の最後に、阿蘇周遊の一日を入れました。産直クラブの池田さんがマイクロバスで迎えに来て菊池農場を出発。木之内農園でのイチゴ狩りを挟んで、大観望、中岳、ファームランドをめぐりました。NPO 阿蘇エコファーマーズの研修用ログハウスに最後の一夜をし、4月5日、朝10時15分熊本空港発のスカイマーク便で帰路に発ちました。



3 会計報告と協力者

2013 福島招待プラン 会計報告

収入	
手をつなごう福島プロジェクトより	40,000
百草園より	100,000
千草会（百草園消費者の会）より	50,000
九州産直クラブより 寄付	180,000
参加費大人 10000 円	30,000
参加費子ども 5000 円	25,000
寄付 15 人	268,820
計	693,820
支出	
福島 3 家族交通費	365,130
福島 4 家族宿泊及び食事代	147,936
送り迎え車ガソリン代	25,000
熊本城入場料	3120
イチゴ狩り	6000
レンタカー代	17,235
報告書印刷代	10,000
雑費	7180
計	581,601
残金	112,219

■残金について

福島 の地から遠く離れて生活をしていても、福島のために何かしたいという思いを持った人達が多い事を改めて知らされました。

12 万円弱の残金でしたが、今回の企画に改善を加えて、次を準備するための基金として使わせていただきます。ありがとうございました。

会計担当 成毛よしき
間澄子



協力して下さった皆様

寄付

九州産直クラブ様
 武藤計臣様（やまあい村）
 山下敏文様（共同運輸）
 原田敏幸様（原田あいがも孵化場）
 町本知亜希様（千草会）
 内田敬介様（熊有研会員）
 田上知事子様（熊有研会員）
 野中元様（熊有研会員）
 森連子様（熊有研会員）
 大塚恵理子様（千草会）
 新田典子様（千草会）
 古荘洋子様（熊有研会員）
 吉川直子様（熊有研会員）
 寄元和浩様（万菜村）
 弓削京子様（千草会）

団体

手をつなごう福島と！プロジェクト
 菊地農場・だい典子様
 有機野菜生産者グループ「百草園」
 千草会（百草園の消費者の会）
 木之内農園・阿蘇エコファーマーズ
 学童保育おむすびっこクラブ・福田研様
 万菜村
 福島ハンドツーハンド・阿部様
 九州産直クラブ
 くまもと産直クラブ・伊東弘様

個人

堀田さつき様	成毛佳季様	福田亜矢子様	内田朋昭様
高本克彦様	沼田ムツ子様	オビロオニャクワレ様	境正作様
高済こずえ様	弓削京子様	西村友作様	寄元和浩様
武藤計臣様	瀬井真理子様	村上こうすけ様	吉川直子様
宮下様			

その他アドバイス、宣伝など YWCA・俵京子様、かざる・吉岡様、移住者の夏目様などから世話になりました。

4 今後に向けて

反省会まとめ

初めて取り組んでみて、いろいろな課題も見えてきました。参加家族へのアンケートを参考に、中心的に動いてくれた人に集まってもらって反省会を行いました。

1、スケジュールと宿泊

楽しい時間を過ごさせてもらったとの感謝の言葉とともに、改善すべき点のご指摘を多くいただきました。中でも、スケジュールが詰まりすぎていて大変だったことが一番にあげられます。県内各地をほぼ日替わりで移動することになって、荷物を抱えて宿泊先が転々としたことが大きな負担になりました。保養のあり方全体を検討する必要があるそうです。リラックスできる時間と移動の負担を少なくできるように、宿泊を滞在型にして、せめて一カ所か二カ所の移動で済むように工夫する必要があると思いました。

2、女性目線での相談窓口

それに関連するのですが、特に親子連れで女性が中心のプランになるので、出来れば世話役として、受け入れ側に女性目線で相談窓口になれる人が期間を通してつけることが必要でした。今回、熊本に移住してきた高済さんが多くの場面で協力してくれてカバーしてくれました。担当だった間の気が回らない点も多く、今回の場合、受け入れ側の全員がそれぞれの日常の仕事を抱えながらの体制ということもあって、この点は全く不十分でした。宿泊所の施設や備品の不案内と整備状況、洗濯物の処理など技術的に改善すべきところもいろいろ見つかりました。

3、交流

子供達は、期間中発熱などの病気を心配しましたが、そのようなこともなく元気に過ごせたようでした。熊本の子供達と福島の子供達が一緒になって、特に天気がよい日は駆け回って遊んでいたのが印象的でした。また、学童保育をやっているゴリラ先生こと福田研さんに関わってもらって大変良かったと思います。私たちが一番願っていた「思い出を作る」ということは出来たのではないかと思います。一方、親同士の交流という点では、不十分でした。熊本城の一日と、肥後民家村での夕食会を交流の機会として設定したのですが、一般参加はありませんでした。カンパを出した人へも情報は回したのですが、保養プランという性格から遠慮してしまわれたのではないかと思います。民泊の間や、送り迎えの車中、子供を遊ばせている間や食事がてらなどに会話したことがとても貴重でした。簡単には言い表せませんが福島で日常暮らすことの様々な現実に触れることが出来ました。集会などで接する福島からのメッセージとはまた違った物でした。

4、体験の蓄積や協力ネットワークの整備

受け入れる団体の規模や力量にもよりますが、今回のように親子と一緒に受け入れるというプランで考えるといろいろ工夫の余地がありそうです。

① 福島現地とのつながり

計画を早い段階で立て（今回は動き出して正味 2 ヶ月くらいで時間が足りませんでした）、どういう趣旨で開催し、どういう人を招きたいのかを募集要綱としてはっきりさせた上で、福島現地で情報窓口になってくれるところと連携する。特に参加者の募集や紹介が遠く離れた九州では一番難しい。

② 滞在型プランのための宿泊施設確保

民泊、合同宿泊所、空き家ロッジなどを確保して、そこに滞在しながら催し事に参集するという形が取れると良い。プライベートな時間が作れる空間があったほうがいい。

③ 子供達の遊びの指導が出来るグループとの連携

親同士の交流の機会を作るためには子供達は子供達で過ごし、大人は大人の企画を別に行うという機会を作れるといい。その為には、子供達の遊びの指導が出来る団体との連携があると安心して取り組める。

④ 情報交流

県下の保養プラン体験団体との情報交流を行い、協力関係やノウハウの蓄積を行う。やってみて感じた難しさや、うまく乗り越える知恵など、色々勉強になるのではないかな。YWCA などが声かけをして実施出来ないか相談してみる。

5、改善を加えて続けていく

広範なご支援のおかげで、予算を越える資金が集まりました。これを次の機会のための準備金として蓄えたいと思います。今回のように大口のカンパを続けていただくことは出来ないと思いますが、その分協力の環を広げていければ、次のプランを実現出来るのではないのでしょうか。



くまもんグッズ、子供達に人気でした！！



福島から

飛行機に乗って、お母さんと熊本まで来ました....



熊本城にて



トラックに乗って竹の子掘りに

「福島のために何かをしたい」という多くの人に支えられて、このプロジェクトを実施することができました。福島で起きた原発事故を忘れないために、手をつなぎ合いましょう。協力をいただいた方や団体のお名前は、11 ページに掲載させていただきました。